

アシスタント・コンサートマスター 平澤 海里 Kairi Hirasawa vol.34



## ヴァイオリンの音色の華やかさは、オペラ歌手でいえば花形のソプラノ

♪楽器を始めたきっかけは？

オーケストラプレイヤーを目指したきっかけは？

祖父が母にヴァイオリンをさせたかったそうで、当時購入した一番小さいサイズのヴァイオリンがそのまま長い間物置に置かれていました。僕が4歳のときにその楽器でヤマハ音楽教室に通い始めたのがきっかけです。小・中学生のときには桐朋学園の音楽教室に通い、高校・大学と桐朋学園で学びました。小学5年～大学の頃まで入っていたジュニアフィル(トランペットの井上さんやチェロの矢口さんも入団していた)でコンサートマスターをさせていただき、ドイツ・マグデブルク劇場で音楽総監督もされている指揮者のキンポー・イシイさんに誘われ、エキストラで何度も通っていました。オケの経済的な問題でなかなかオーディションの機会が来ず、山響でアシスタント・コンサートマスターの募集を紹介され、オーディションを受けました。

♪山形の印象は？山形でお気に入りの場所は？

やっぱり山形は自然が素晴らしいです。食べ物なんでも美味しくて、入団してから体がどんどん大きくなる。

お気に入りの場所は、山形駅前にあるバー「ライズ」です。東京でお世話になっていたお店のお客さんがこのバーのマスターだったんです。

♪アシスタント・コンサートマスターの役割って？

やりがいや大変な部分などありますか？

コンサートマスターのサポートとして、みんなが考えていることや指揮者が伝えたいことをパートに瞬時に伝えたり、自分が発信することもあります。隣にいるセカンド・ヴァイオリンの動きにもいつもアンテナを張っています。また、スクールコンサートではアシコンの経験を活かしてコンサートマスターを務めています。常に頭がフル稼働で考えることが多いので、終わった後は疲れますね(笑)。務めていられるのは、ジュニアフィルでの経験も大きいと思います。

♪好きな作曲家・曲は？

高校生の3年間は、副科で作曲を習っていて、好きな作曲家の研究もしていました。バルトークです。いわゆる近現代の作

曲家ですが、現代的な作曲技法や和声法にとどまらず、聴く側への意識も高く華やかさもあり、そのバランスが素晴らしいと思います。好きな曲はヴァイオリン協奏曲第2番。バルトークを好きになったきっかけの曲で、高校の卒業試験でも弾きました。

嫌いな作曲家は基本的にいないです。苦手な作曲家のものを積極的に演奏するようにはしていて、そうしていると不思議と好きになってくるんです。すごく昔はモーツァルトが苦手でしたが、今では一番といってもよいくらい好きです。

♪ヴァイオリンの魅力は何ですか？

ヴァイオリンでしかできない技巧があって、それがその華やかさに結びついているところ。音色も華やかで、オペラ歌手でいえばソプラノ、花形です。

♪好きなヴァイオリン奏者は？

20世紀の映像をいろいろと観ていた時があり、ハイフェッツやオイストラフが大好きです。現代では、アンネ＝ゾフィ・ムターさんの演奏が好きですね。カラヤンに見出された天才少女と言われましたが、年を重ねるごとに自由自在な表現を必ず入れてくる、そのアイディアにとても影響を受けます。

♪使用している楽器について教えてください。

イタリアのマウリツィオ・ロンコーニさんが1989年に製作された楽器です。中学生のときに、フルサイズのヴァイオリンに替えた時に選んだもので、それからずっと使っています。

♪休みの日の過ごし方は？趣味・特技はありますか？

動いていないとダメな人なので、美味しいものを探していろいろなお店を開拓しています。映画館に映画を観に行ったり、読書をしたり、あとは、小さい頃からカクテルを作ることが好きです。もちろんお酒なので飲んでいませんでしたが、カクテルのきれいな色が好きで、お酒を調べて誕生日プレゼントに買ってもらい、父に作ってあげていました。小さいころの夢はバーテンダーかマジシャンだったんです(笑)。

♪最後に、お客様へのメッセージをお願いします。

もっとたくさんの人に山響を知っていただくためにこれからも頑張っていきますので、宜しくお願いいたします。